もりんぴちゅ湖東

2019 Vol.23

滋賀県中部森林整備事務所　〒527-8511　滋賀県東近江市八日市緑町7-23　☎0748-22-7718　fax0748-22-8798

この人に注目！！

大滝山林組合管理者
木下　慶一さん

緑化功労者「シャクナゲ賞」受賞！

木下　慶一さん

緑化功労者「シャクナゲ賞」は地域の緑化や森づくりに長年にわたり地道に取り組まれ、地域の緑化に寄与した功績が顕著な方に対して、知事が表彰するものです。

今年度の受賞者は、大滝山林組合（多賀町）の管理者・木下慶一さんです。大滝山林組合は、入会林として共同利用されてきた犬上川の上流域にある水源林の乱伐を防ぎ、造林事業を推進することを目的に、明治 26 年に設立された一部事務組合です。木下さんは平成 4 年から同組合の議員、平成 15 年から現在に至るまで管理者として同組合を率いています。同組合では木下さんの指導により、計画的に年間 3～5ha の皆伐・再造林を実行し、「伐る」、「利用する」、「植える」といった森林資源の循環利用を実践しています。植林面積は管理者就任以来、約 100ha に上っています。また平成 19 年度以降、森林環境学習「やまのこ」事業の受け入れを行い、森林資源の大切さや水源林の働きなど森林の持つ多面的機能について学びの機会を提供しています。この他にも多賀町中央公民館の建設にあたり、同組合が多賀町産材を供給するなどその活動は多岐にわたります。

「ひと口で言うと山が好き」

取材でそう話始めた木下さんの表情は心の底から山を愛しているという想いが伝わる笑顔。一方、「切ったら植える、植えたら育てる、育てたら使う、を徹底している」と語るその表情は真剣そのもの。また、子供たちに対して美しい水を琵琶湖に流すためには山の管理がいかに大事か、一方的にではなく対話しながら教えているという木下さん。自ら地域の山を守るために動き、次世代に山の大切さを伝えていく姿勢に木下さんの熱い想いがうかがえました。

表彰式の知事との懇談では、枝や根の一本に至るまで無駄にせず利用することを心がけ、これからも林業に生涯をかけると述べられ、さらなる地域の山林緑化や森づくりに意欲を示されました。

木下さんのますますのご活躍を期待しています。

（中川）

伐採・造林一貫作業システムについて

日本の人工林は、主伐期に達した高齢級の林分が増加している一方、若齢林が極端に少ない状況になっています。森林資源の持続的な利用や森林吸収源としての機能を高めるためには主伐を行い、その後再造林を行い、森林の若返りを進め人工林の齢級配置を均衡化する必要があります。それには森林再生に必要な伐採跡地の更新・保育に要する経費をいかに縮減するか課題となっています。伐採・造林一貫システムは、従来は伐採作業と造林作業は時期も実施主体も別々に行っていたものを、伐採作業と造林作業を連続して行うことにより効率化・低コスト化を図るものです。

滋賀県では、平成 29 年度から実証調査を行っており、平成 30 年度は中部森林整備事務所管内の大滝山林組合所有林でも実証調査（工程調査など）を行っています。（満井）

- ☑ 伐採と造林を連続して作業→効率化・低コスト化・確実な再造林の推進が可能
- ☑ 皆伐～初期保育を一貫的に同一事業体が実施することによる経費の圧縮、効率的素材生産およびコンテナ苗植栽による確実な再造林の確保が可能

伐採・搬出 → 地拵え → 植付け 獣害柵

林業労働災害について

国は、労働災害を減少させるために重点的に取り組む事項を定めた中期計画を定めています。現在の計画は「第 13 次労働災害防止計画」(期間 2018 年 2 月 28 日策定、 3 月 19 日公示)です。第 12 次計画期間で死亡災害が減らなかったことから、第 13 次計画では、重点事項の一番に「死亡災害の撲滅を目指した対策の推進」 が挙げられ、労働災害による死亡者数が特に多い 3 つの業種については、労働災害による死亡者数を 2017 年と比較して、2022 年までに 15%以上減少させることにしています。そして林業は、残念ながらその中の一つです。

現場で頑張って作業されている皆さんは、山での作業が危険なことを十分認識し、常にけがをしないように注意して作業をしておられることと思いますが、平成 30 年度は、管内において 4 件の労働災害（労災保険給付の有無に関わらず、休業 4 日以上の労働災害）が起こってしまいました。この次に大きな事故が起こらないか懸念されます。ついては、現場の皆さん、また、各事業体におかれては、今一度「林業事業場自主点検表　チェックリスト」を活用し、現場作業を再度点検し、事故が起こらぬ努力を続けていただきたいと思います。(金子)

「林業事業場自主点検表　チェックリスト」
http://www.rinsaibou.or.jp/cont02/items15/pdf/rin_checklist.pdf

地域に根ざした元気あふれる『日野町林業研究グループ』

こんな活動やってます

日野町林業研究グループ（以下「日野林研」）は、昭和 48 年に結成され会員数 38 名で、近年は町内の小学校林整備を中心に活動されています。平成 30 年度も町内の小学校林および周辺の森林整備を行い、その時に伐採した広葉樹を小学校でシイタケ植菌の原木として利用しました。日野林研では学校林整備のほか、しゃくなげ等の接ぎ木教室、町の産業フェアに会員の作品を出店、放置されている竹林整備を通して地域の環境整備に貢献する等、活発に活動されています。なお、過去に学校林整備に関わった地域の中には、現在では地域で学校林を管理したり、将来に向けて森林をどう守るかの学習をする地域もあり、林研の活動を通して森林への関わりが地域に広がりつつあります。また、会員の中には森林を所有していない方々もいらっしゃいます。加入に至った経緯を日野林研会長にお尋ねしたところ、これまでの森づくり実践講座に参加して林業に魅力を感じた方や民泊事業活動を通して知り合った方々に声を掛けたそうです。民泊事業では、日野林研はシイタケ菌打ち、薪割り、ペン立て作りを担当して、特に薪割りは子どもに人気があるそうです。最後に、「今後は現在問題になっている森林の境界明確化に関わっていきたい」と会長は言っておられました。(安福)

編集後記

平成 33 年（2021 年）の第 72 回全国植樹祭開催に向けて県では着々と準備を進めています。天皇皇后両陛下をはじめ、全国から来県される方々に琵琶湖を守る滋賀県の美しい緑を感じていただきましょう。　（担当　中川）

琵琶湖森林づくり事業
この事業は「琵琶湖森林づくり県民税」を活用して実施しています。